



モンスーンの豪雨によりカラチも都市型水害の被害を受けている。アル・カイルアカデミーは大きな被害を受けた地域で住宅再建等の救援活動に取り組んでいる。(5 ページ 洪水被災復興支援報告)



JFSA 会報
バックナンバー



JFSA
ホームページ



JFSA
フェイスブック



JFSA
インスタグラム

【招日報告】

海外事業担当事務局

依知川 守

招日期間.. 2025年8月21日〜9月2日

メンバー

P&Jカンパニー(以下PJC)代表

アブドゥル・カユーム氏

北部山岳地帯の出身。アル・カイルアカデミースタッフとして20年以上務めたのち、2020年PJC設立。2022年にはカラチ市の古着マーケットに倉庫を借り本格的に事業を稼働。現在PJCでは7名が働いている。*会報65号にカユーム氏のインタビューが掲載されています←



PJC職員 ザヒッド・アリ氏

アル・カイルアカデミーで幼稚園から学び、アル・カイルカレッジを第1期生として卒業。その後大学進学を経てアル・カイルアカデミーで仕事を始める。現在はアル・カイルアカデミーとPJCで働いている。

PJC職員 アサド・アリ氏

家庭の事情で大学を中退後、アル・カイルアカデミーで職員として働いてきたが、現在はPJCの仕事に専念している(本号4ページにインタビューあり)。

目的

JFSA及び協力団体との交流(PJCの事業活動報告、JFSAや協力団体の活動現場を見学)、PJCの事業推進に繋げる企画の相談等

行程報告

8/21(木)〜23(土) 福岡にてグリーンコープ共同体と交流。社会福祉法人グリーンコープが運営するフアイバーリサイクルセンターを見学。実務者の方とバキスタンやタイにおける現地での販売の様子を共有し、選別等作業の課題について話し合う。

8/24(日) アウトレット・リサイクルショップを視察。(他に成田山やポートタワーなどを見学)

8/25(月) 地球市民交流基金アーシアンと交流。JFSA理事会に参加。生活クラブ虹の街と交流。

8/26(火) 生活クラブ東京本部を訪問し交流。生活クラブ・虹と風のファームで苺や落花生などの畑を見学。

8/27(水) JFSA千葉センターでFRうらやすの皆さんの選別作業を見学(FRうらやすはアル・カイルアカデミーのコンピュータクラスを支援している)。今後のPJCの事業展開を検討する目的で、中古品を回収して海外へ輸出する事業を手掛ける事業者を訪問し相談。



8/22 社会福祉法人グリーンコープ・ファイバーリサイクルセンターにて



8/25 生活クラブ虹の街の地域交流スペース「渚」をお借りして、JFSAの理事会を開催



8/27 FRうらやすのみなさんの作業を見学



8/26 生活クラブ東京本部にて



8/28 パルシステム茨城 栃木みとセンターにて



8/28 生活クラブ茨城牛久センターにて



8/29 アーシアンショップ柏にて



8/29 パルシステム千葉の皆さんと



8/26 虹と風のファームにて

8/28(木)パルシステム茨城 栃木みとセンターで交流。生活クラブ茨城牛久センターにて交流。

8/29(金)パルシステム千葉「パルひろば☆おたかの森」で交流。アーシアン柏店で交流。

8/30(土)JFSA柏店・カブレを見学。輸入古着の取り扱いについて協議。

8/31(日)都内の古着販売店を視察。

9/1(月)YouTubeのライブ配信でPJICの事業について報告。

*配信された動画はこちらからご覧いただけます↓



振り返り

JFSAは人と人が直接会う交流を大事に考え、これまでアル・カイルアカデミーの生徒や教師、古着販売業者など様々な人々を招いてきました。そして今回はJFSAが連帯するPJICが事業活動をより発展させるため、実務に携わる3名を招きました。彼らはJFSAの活動に協力する方々に、PJICの古着の輸出入事業やアル・カイルアカデミーの教育現場の様子を報告するとともに、彼ら自身が実際に衣類等を提供してくださっている皆さんの言葉に触れることができ、お互いの理解が深まるとても大切な機会となりました。

パルシステム茨城 栃木みとセンターでの交流会の時です。組合員の方が施設について「地域で暮らす組合員が交流し、社会課題や心配事についても相談しあえる場」というご紹介をされたのですが、それを聞いたカユーム氏からは「それはパキスタンのモスク(イスラム寺院)に似ています。モスクはお祈りをするだ

けではなく、地域の住民がお互いの暮らしについて相談し合う事のできる場なのです」という言葉がありました。またカユーム氏は「教育は人々が自立して生きる上で大切なものであり、親や教師から始まり、そしてこの社会においては教育に加えて、人々が平等であるということが非常に重要だと考えています。例えばこのセンターの事務所入口に生協で配達をされている皆さんの写真が掲示されているのを見て、皆さんが様々な仕事に対してリスペクトを持っていることを理解しました。これは正に良い社会の証です。PJICは様々な人が対等な関係で働ける場を作り、その事業で生み出した利益からアル・カイルアカデミーの支援をしています。そして私たちがこの事業を通して目指しているのは人々が平等に暮らせる社会なのです」と話しました。

*3人の帰国時のメッセージを、JFSAのインスタグラムで公開しています。こちらからご覧いただけます↓



P & Jカンパニー(以下PJ C)の一員として、初来日されたアサドさんに、アル・カイルアカデミーとの関わり、現在の仕事などについて伺いました。

どんな子供時代を過ごしましたか？

1992年にカラチ市のスラム地区に生まれました。教育の価値が低く見られがちな地域でしたが、母が教育熱心で、私立の学校に通わせてくれました。マドラサ(イスラム教神学校)にも通い、私塾にも行っていたので、勉強をして一日が終わる、そんな子供時代でした。13年生の終了間近(大学1年にあたる、17歳の時に、叔父がガンを患いましたが、彼にはまだ幼い子どもしかいなかったため、私が大学を中退し、入院中の世話をしていました。パキスタンでは、家族の看病のために学業を断念するのは一般的なことで、母からも中退をすすめられました。

アル・カイルアカデミーやJFSAとの出会いは？

当時から、親戚の女性がアル・カイルアカデミーで働いており、学校を中退せざるを得なかった私の将来を案じて、校長先生に雇用を掛け合ってくれました。私は20歳になっていました。1ヶ月半の試用期間は無給でしたし、当時のアル・カイルの状況で私を雇うのは難しいと言われ、一度は諦めかけましたが、バイクに乗れたことが役立ち、荷物の運搬などの職を得ました。その後、同じく学校スタッフだったカユーム氏のもとでAKBG※の業務にも

関わるようになり、この13年間でJFSAのことも少しずつ知りました。

※AKBG…アルカイルビジネスグループ。学校のスタッフが、JFSAからの古着輸入事業も担っていた頃のグループの名称。AKBGで20年以上事務局を務めたカユーム氏が、2022年に衣類等の販売に専念する事業体としてPJ Cを設立した。

共にパキスタン国外に出るのは初めてというアサドさん(右)とザヒッドさん(中央)。PJ C代表のカユーム氏と。



現在は週6日、PJ Cの仕事をされているとのことですが、どのような現場ですか？

世界中の古着が集まる大きな倉庫で、JFSAへ輸出するものをピックアップする4人のスタッフの統括や、輸出までの作業を計画的に進める責任者として働いています。1日平均10トンの古着の中から、100キロほどをピックアップします。

JFSAへの輸出には、AKBG時代からボランティアとしても関わってきましたが、今は本業とし

てビンテージについて学びながら、古いものの魅力に触れられる面白い現場です。

最後に、アサドさんから見たJFSAはどんな存在なのかと尋ねると「物やお金を送って終わり、一方的な支援をしたら終わり、そういう事例が多い中で、直接会い、相手を知り、関係性を築いていくJFSAはまるで兄弟のような存在だ」と話してくれました。



JFSA東葛センターにて、手作りのピリヤニを皆に振る舞うアサドさん。この日はちょうど、PJ Cから輸入した古着やラグなどが東葛センターに到着。PJ Cの3人も、JFSAのスタッフと共に荷下ろし作業を行なった。

常に周りに気を配り、サポートをする様子が印象的だったアサドさん。カユーム氏に多くを学びながら今のようない人間性が培われてきたとのこと。PJ Cのメンバーもまた、兄弟のように支え合う関係なのだと感じました。

協働事業担当事務局 中崎亜矢子

アル・カイルアカデミーから JFSA へのメッセージ

3 年前のダドゥにおける洪水被災世帯の住宅再建にご支援いただいた JFSA に心より感謝申し上げます。JFSA の迅速なご協力により、村人の安全な住まいが回復されただけでなく、すべてを失った多くの被災者に希望と尊厳が取り戻されました。この協力関係は、両組織の間に存在する強い友情と人道的価値観の証です。JFSA の惜しみない支援のおかげで、絶望はレジリエンス(回復する力)へと変わり、被災した家族が復興への第一歩を踏み出すことができました。

今年発生した洪水と、アル・カイルアカデミーが行っている被災地支援の報告

<洪水の状況>

今年もパキстанはモンスーンによる豪雨、河川の氾濫等によって引き起こされた壊滅的な洪水に直面しました。この災害はパンジャブ州、シンド州、カイバル・パクトゥンクワ州を最も直撃し、800 人以上が亡くなり、数百万人が避難を余儀なくされ、村、農作物、インフラが破壊されました。カラチでは、激しい降雨により深刻な都市型水害が発生し、低地の住宅が水没し、数百戸の家屋が被害を受けました。

<アル・カイルアカデミーによる救援活動の報告>

①ラホール郊外

壊滅的な洪水により数百世帯が被災、私たちは緊急支援としてテント 100 張とベッド 100 台を配布するとともに地元の団体と緊密に連携し、被災者のためのテント村を作り、安全な生活環境を確保しました。

②カイバル・パフトゥンクワ州

ブネル地区では、数日間の豪雨とそれに続く突発的な集中豪雨によって洪水が発生しました。これにより家屋は流され、道路は崩壊し、コミュニティ全体が孤立しました。私たちはビシュノイ村とカダル・ナガル村に焦点を当て、80 世帯に現金援助を行い、100 世帯にマットレス、毛布、枕一式を配布しました。

③カラチ: モンスーンによる大雨はカラチで深刻な都市型水害を引き起こし、何千もの家族が困窮しました。特にユスフ・ゴート、ハミサ・ゴート、アユブ・ゴート、リヤリ 36 番地などは住宅やインフラに大きな被害を受けました。これらの地域にはアル・カイルの生徒が暮らしている場所も含まれます。私たちはこれらの地域を調査し、最も被害を受け困窮している家族の住宅再建支援を開始しています。



カイバル・パフトゥンクワ州の被災地を訪問し、村人に被害の状況を聞くアル・カイルアカデミーのサード氏



被害の大きかったユスフ・ゴート



冠水した街



ユスフ・ゴートでの住宅再建支援

現地からの報告を受けて

JFSA はパキстанで 3 年前に発生した大洪水の被災地で、アル・カイルアカデミーが行なう復興支援に協力してきました。今年も再び洪水により各地で大きな被害を被っているとの報告を受け、胸が締め付けられる思いです。被災している方々に心からお見舞い申し上げます。上記のようにアル・カイルアカデミーは既に各地で被災者の救援活動に取り組んでいます。今後もアル・カイルアカデミーのメンバーと相談しながら、JFSA としての対応を理事会で検討して参ります。



アル・カイルアカデミー本校 教室に向かう生徒たち

フォトギャラリー

قطار بنانا

カタール バードナー
列を作る



カラチ市内の道路 渋滞が続く



カラチ市内のバザール バザールの客や店の人たちが利用する食べ物屋も並ぶ



北部の都市マンセーラからバラコートに向かう幹線道路 山羊の群れを連れて歩く

【派遣目的】

タイ向けコンテナの販売状況確認および

マーケット調査

輸出コンテナの販売状況の現地確認

第91回コンテナは5月26日に横浜港を出港し、6月8日にタイ・レムチャバン港に到着しましたが、カンボジアとの国境の街アランヤプラテート（アラン）への到着が大幅に遅れたため、派遣中に立ち会うことができませんでした。

6月12～13日にWASアリ・シャー氏、PJCCカーム氏とアランの倉庫を訪れ、事前に買い付け業者との交渉を行いました。これまでも取引のあるカンボジア人の卸売業者ティア氏が主要な21アイテムを購入する方向となりました。各アイテムの1KGあたりの価格は、バッグ…105バーツ（462円）、靴…55バーツ（242円）、ぬいぐるみ…120バーツ（528円）、アクセサリー…650バーツ（2860円）ほどになりました。タイで販売を始めた当初と比べ全体的に価格は上がっており（ぬいぐるみは4倍程）、品質の良さが認知され、顧客がついている状況です。卸売業者からは「次のコンテナはいつ来ますか？毎月1本送ってください」と言われており、需要の高いアイテムは直ぐに買い手がつく状況です。カーム氏は持ち前の

社交性を活かして、アランの卸売業者の知人も増え、着実に横の繋がりが広がっていると感じました。



買い付け業者のティア氏(右)と価格交渉をするアリ・シャー氏(中央)とカーム氏

現地マーケット調査(中古眼鏡・サングラスについて)

これまでのタイの市場調査から、タイでは日本の中古雑貨品の需要が高く、多種多様な雑貨品が流通していることが確認されています。そのような背景の中、需要の見込まれる新たな回収アイテムを選定し、コンテナの収益を高めるため、今回「眼鏡・サングラス」について現地調査を行いました。「眼鏡・サングラス」は不要になったものが家庭で眠っている可能性があり、回収への反応が期待できます。

バンコク市内のマーケットやショッピングモールを視察しました。マーケットでは1本1000～3000バーツ（440～1320円）の価格帯が多く、

中にはブランド品で20000バーツ（8800円）のものもありました。モール内の眼鏡屋では、新品だけでなく、中古フレームを扱う店もありました。イタリアやフランス、日本から来ている中古フレームのリサイクルのルートがあるそうです。眼鏡やサングラスの中古品は、タイではファッションアイテムとしての用途だけでなく、一般向けの実用的な需要があることが確認されました。今後、試験的な取り組みを実施し、本格回収について検討していきます。

※1バーツ＝4.4円・6/17現在



バンコク市内チャトゥチャックマーケットで売られている眼鏡・サングラス

WASの倉庫でバッグの品定めをするティア氏





第91回コンテナ送り出し&到着報告 タイ

2025年5月15日 積み込み 積み込み重量：15,738KG 横浜港出港：5月26日

2025年6月23日 タイ・アランヤプラテート 古着卸業者 WAS アリ・シャー氏倉庫到着

ボランティア参加：千葉ダルク、あうん、オイシックス・ラ・大地、パルシステム千葉組合員、パルシステム茨城 栃木、生活クラブ虹の街組合員、淑徳大学 SDGs サークル、個人の方など約30名



積み込み終了後の集合写真



WAS 倉庫に到着したコンテナの荷下ろしの様子

タイで需要の高い

- ・バッグ 1,902KG
- ・靴 546KG
- ・ぬいぐるみ 758KG
- ・アクセサリ 156KG
- ・男半袖Tシャツ 1,415KG

…などを積みこみました。

* 到着の詳細は8ページタイ派遣報告をご覧ください。

第92回コンテナ送り出し&到着報告 パキスタン

2025年5月29日 積み込み 積み込み重量：23,803KG 横浜港出港：6月6日

2025年8月4日 パキスタン・カラチ 古着卸業者ニアーズ氏倉庫到着

ボランティア参加：千葉ダルク、あうん、オイシックス・ラ・大地、淑徳大学 SDGs サークル、常総生協、個人の方など約30名



積み込み終了後の集合写真



卸業者ニアーズ氏の倉庫で荷下ろしされ空になったコンテナ。ニアーズ氏（左隅）と荷役労働者のパシュトゥン人。

パキスタンで需要の高い

- ・毛布類 3,050KG
- ・タオル 750KG
- ・ジャケット/セーターなどの冬物 6,965KG

…などを積みこみました。



コンテナの荷物はP&Jカンパニーから卸業者ニアーズ氏に1KGあたり180ルピーで卸売りされ、

売上は4,284,540ルピー（2,227,960円）となりました。

売上から古着代金、海上運賃、関税等の経費を差し引き、1,250,089ルピー（65万円程）が利益となります。

*1 パキスタンルピー=0.52円 9/13 現在

こぼれ話

毎回、積み込みボランティアに参加して頂いている千葉ダルクさん。九十九里にある施設ではB型作業所としてお弁当作りを行っています。入寮している仲間の就労場所を作りたいとの思いから始まったそうです。週に1回JFSA千葉センターに昼食用のお弁当を配達してもらっています。九十九里にあるダルクの農場で育てられた無農薬野菜を使って、「味よし！見た目よし！」の大満足のお弁当です。色々なことに取り組むダルクさんの活動にはいつも刺激を受けます。

九十九里ハウスで作っているお弁当。イチオシメニューの手作りハンバーグ。



「k a p r e 改装」

まずk a p r eの一部、倉庫に隣接した小部屋を改装したきっかけは、『楽しもう、お洒落にしよう』という理由でした。k a p r eには20坪弱の事務室のような小部屋があります。去年の夏頃から、部屋の半分に木材を敷き詰め、商品の良さが引き立つような空間をデザインしました。もともとある姿は想像できないくらいの部屋が完成したのですが、もう半分が普通の壁紙だけだったので、まとまりがなく空間が勿体無い感じでした。

今回その部屋の改装を、センター業務担当が中心になって行いました。古着屋さんではあまり馴染みのない、絨毯やラグが商品として陳列されている部屋の改装準備を6月から始めました。安価なものでは880円から、高価なものでは50,000円を超えるものまであります。そんな幅広いアイテムをより良く魅せるための空間作りをしました。必要な材料の準備から、什器の塗装や壁紙の張り替えまで全てスタッフが行いました。今年の夏は暑くなるのが早く、炎天下での作業が続きましたが、7月に無事完成させることができました。

改装後の小部屋
今まで以上に商品の魅力が伝わる空間に



改装が終わり、実際にお客さんと話していても『凄く良いお店になったね』と言われることが増えました。今までは高額な商品の販売が難しく、商品の良さを伝えるためには積極的な接客が必須でしたが、お店の雰囲気が変わったことによって自然と商品を手に取って頂くことができます。勿論お店の雰囲気が変わり、商品の良さが伝わりやすくなったことが大きいと思いますが、個人的にはそれ以外のかがお客さんの心を動かしているように思います。それはスタッフ全員の『楽しんでる様子、日々の努力』だと信じています。

サイズや価格も様々な、ラグや絨毯がずらり



今まで自分は、仕事というものを作業としてこなしていることが多かったのですが、一番は楽しむことが大切なんだと気づきました。楽しむことも遊びじゃなく、真剣に全力で仕事を楽しくことです。それぞれがそれぞれの良さを持ち合わせていて、互いにできないことを補い合うそんな関係を築いていけたらと思います。

東葛センター担当事務局 古田 真大



「終わりのない模様替え」

売場の模様替えに取り組み始めてから約一年が経ちました。一年前と比べると、全体的なお店の雰囲気は大きく変わったと思います。

久しぶりに来店して、良い意味でとても驚いている様子のお客さんの姿を時々見かけ、こちらも嬉しくなります。「オーナーさん変わったんですか？」と聞かれたこともあります。

模様替えを始めて変化があったことは、お客さんの滞在時間が長くなったことです。目当てのものだけ見るのではなく、全体的にじっくり見て、楽しんで下さっている様子を見る機会がとも増えました。もう一つは、私たちスタッフが、これは良い！面白い！と思っている商品の売れ行きが良くなって来たことです。商品を「並べる」だけではなく、「魅せる」ことに取り組んでいる成果だと思っています。オスメの商品をお客さんが気に入ってくださればこちらも嬉しく、話をするきっかけにもなります。そして、また次に来てもらえることにも繋がります。

また、最近のお客さんからの声でとても嬉しかったのが、友だちがとても素敵な服を着ていて、ど

こで買ったのか聞いたらチャルカバザールを紹介してもらい、来ました！という方が数人いたことです。

そのうちのお一人はチャルカバザールをとても気に入ってくださり、たくさんお買い物をしていただきました。その際に「様々な商品があつてとても面白かったです。季節の変わり目ごとに来ます。素敵なお店で夢のような時間を過ごすことができました。ありがとうございます」と言ってお帰りになりました。こちらとしても、夢のような時間と言っていただきとても嬉しく、私たちが日々行なっている仕事の励みになりました。

チャルカバザールの魅力は様々なジャンルの洋服・雑貨があることです。趣味が違う友人や、年代の違う家族、カップルやご夫婦：誰と一緒に来ても各々に楽しんでいただきたい、という思いで、商品セレクトや、テーマ別にディスプレイをしたりと、工夫しています。

きっと、模様替えは日々常に、絶えることはないことだと思います。誰かが不要になって手放した服も、チャルカバザールという場を通じて再び魅力が見出されて、新たな人の元へ旅立っていきけるように。お客さんにも次に来た時に、また新しい魅

国内事業担当事務局 大橋 紀子

力を感じていただけるように、楽しみながらこの先も続けていきたいと思っています。



スタッフも、20代〜50代と幅広く、趣味も様々です！ご来店の際は、ぜひ気軽に話しかけていただけると嬉しいです♪



JFSAのイベント回収

昨年度、JFSAの年間のコンテナ輸回收数は5回でしたが、今年度は6回に増やしています（パキスタン3回、タイ3回）。輸出を1回増やすためには20〜25トン回収量を増やす必要があります。そのため、パキスタンのパートナー、P&Jカンパニーとともに市場調査を行ったタイで需要の高いアクセサリやぬいぐるみも回収品目に加えています。

また、以前から続けているイベント回収を増やし、協力団体のお祭りなど様々なイベント会場で回収の機会をいただいています。今年の2月には、長年使っていた2トンロングのトラックをパワーゲート付きの2トントラックに変えて、回収に力を発揮しています。

回収の会場は、JFSAの回収に参加する方と出会える貴重な場です。「出してよいかどうかわかってしまつて：直接聞けて助かります」、「送付はたいへん、また来て下さい」という声もたくさんいただきます。先日のイベント回収には、10年以上前から協力いただいている支援メンバーの方がいらつしやいました。ご近所のマンションに呼び掛けて、回収の案内チラシを置いてくださっている方です。

会場に比較的近いところにお住まいで、お会い出来たら嬉しいと思っていたのでまるでプレゼントをいただいたような気持ちになりました。その方から「JFSAは古着を媒介として人と人をつないでいるのですね」とおっしゃっていただきました。それは、JFSAがそうありたいと目指していることで、その言葉はさらに大きなプレゼントでした。

協働事業担当事務局 田邊 紀子



生活クラブ東京「わくわくでんきまつり」
「大泉センター展示会」



幕張ベータタウン「ベータタウン夏まつり」

今後も協力団体のイベントや各地の様々なイベントで回収を予定しています
イベント回収は JFSA ホームページでもご紹介しています ぜひごらんください！

JFSAホームページ
イベント回収については
こちらから→



■□2025 年度(2025 年 10 月～2026 年 9 月)の会員を募集しています

【2024 年度 正会員 個人:157 名・団体 10 支援メンバー 個人:1060 名・団体 5】

NPO法人JFSAの会員は次の2種類です

1. 会員(正会員)この法人の目的に賛同して入会した個人または団体
2. 支援メンバー この法人の目的に賛同し、賛助の意思を持つ個人または団体

●年会費(10 月～翌年9月)

個人:会員 5,000 円 / 支援メンバー 2,000 円

団体:会員 50,000 円 / 支援メンバー 10,000 円

※活動への寄付にも右記の口座がご利用できます(通信欄に「寄付」とお書き添え下さい)

会費振込み口座(※お振込みの手数料はご負担ください)

●他行からのお振込み

ゆうちょ銀行 金融機関コード:9900

預金種目:当座 店名:〇一九店(ゼロイチキウ店)

口座番号:0444198

※お振込み後 1 週間以内に、振込み日、住所、お名前、種類、口数、お振込み金額をメール(右上 QR コード)かお電話でお知らせください

●郵便振替 口座名:JFSA 番号:00160-7-444198

※お名前、ご住所の書き忘れにご注意ください

お名前、ご住所等のご連絡、記載がないときは無記名のカンパとして受領しますのでご注意ください



会員・支援メンバーの方には、会報(年3回)、回収のお知らせ(年3回)、サポーターグッズ(年1回)をお送りします。正会員の方には総会議案書(年1回)もお届けします。

◆JFSA の会報のバックナンバーをご覧いただけます◆
ホームページのトップページ中央「会報(ニュースレター)」よりお進みください。ご希望の方には郵送もできます。

◆会報についての感想やご意見をお気軽にお寄せください◆
JFSA までメール・お手紙でお送りください。
jfsa@f3.dion.ne.jp

こちらの QR コードを
読み取っていただくと
メール作成画面になります。

